

## ホームドアの設置と内方線付き点状ブロックの整備促進を求める意見書

平成28年8月、東京メトロ銀座線青山一丁目駅で、盲導犬を連れていた視覚障がい者の男性がホームから転落し死亡するという大変痛ましい事故があった。またその対策に動き出していた矢先の10月には、近鉄大阪線河内国分駅で、全盲の男性がホームから転落し特急電車にはねられ亡くなるという事案が発生した。

平成28年3月末現在、1日に10万人以上の乗降客がある全国約250駅のうちホームドアが設置されている駅は約80駅に止まっている。また、全国約9,500駅のうちホームドアの整備が完了しているのは約670駅である。駅の安全対策の観点からも列車との接触や転落防止に効果が高いホームドアや転落防止柵の設置は急務である。

また、ホームドア等が設置されるまでの対策として、視覚障がい者がホームの内側を判別できる内方線付き点状ブロックの整備も重要である。

現在、1日の利用者が1万人以上の駅で整備が進められているが、ぜひ全駅において整備を進めるべきである。

よって、政府においては、視覚障がい者を初めとする駅利用者が安心して駅ホームを利用できるよう、ハード、ソフト両面における総合的な転落事故防止対策の検討を急ぐとともに、駅ホームのさらなる安全性向上に向け、次の事項について取り組むよう強く要望する。

- 1 ホームドアの設置に当たっては、全ての鉄道駅ホームの危険個所の実態調査を速やかに行うこと。とりわけ、転落の危険性が高い駅については、現在計画中の駅とあわせて、速やかな設置を実現すること。
- 2 内方線付き点状ブロックの整備については、全駅での整備を促進すること。
- 3 ソフト面の対応として、希望者への駅係員のアテンドや一般旅客に対する誘導案内、さらには視覚障がい者への積極的な声かけ等、事故を未然に防ぐ対策を強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成29年3月16日

内閣総理大臣 安倍晋三様  
国土交通大臣 石井啓一様

いわき市議会議員 菅波 健